

令和7年度 5学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】言葉の特徴や使い方に関する事項、第4学年に配当されている漢字の校内正答率が低い実態がある。また、書くこと（文章構成の役割について理解し、文で表すこと）に課題がある。
- 【社会】都道府県の様子について「八方位について理解する」の正答率がもっと低いことから各都道府県の位置が明確でないことが伺える。また、全体的に地図や資料等の読み取り記述問題への対応に課題がある。
- 【算数】分数の読み取り、余りのあるわり算、四則の混じった式の計算、変化の関係、ひし形の作図の校内正答率が低い。特に2つの数量関係を求める問題、ひし形の作図、直方体の平行な辺を答える問題の正答率が極端に低いことに課題がある。
- 【理科】基礎的な知識は定着しつつあるが、何を確かめるための実験かを考えるという、記述式での回答では、説明が不十分であることや無回答率が高いことが課題である。

2. 大田区学習効果測定の結果

（「主体的に学習に取り組む態度」については児童の様子で評価）

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	◆			◆			◆			◆		
観点別	◆	◆	◆	▽	◆	◆	◆	◆	◆	◆	▽	◆
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

◎ 正答率平均が目標値を上回った教科・観点

◆ 正答率平均が目標値と同程度の教科・観点

▽ 正答率平均が目標値を下回った教科・観点

3. 各教科の授業改善プラン

（1）国語・社会・算数・理科

- 【国語】文章を書く力を身に付けさせるために、テーマに合った内容の作文や理由を明確にした説明文や報告文を書く機会を設定する。また、国語の授業だけでなく、他教科でも振り返り活動の充実を図り、定期的を書く指導を行う。漢字に関しては、小テストを継続して行い、知識の定着を図る。
- 【社会】社会科の用語を正しく押さえた上で、ジグソー学習や、ワールドカフェ形式での発表を取り入れて、児童が主体的に学習に取り組めるように指導していく。また、ICTを活用して発表用のスライド作成を通して協働的に学習できる機会を多くもたせていく。さらには、キーワードを使って、グラフや資料を説明する記述式の課題に取り組ませる。

【算数】 計算ドリル、宿題（課題）プリント、ＩＣＴ機器の活用を通して基礎的な知識や技能（既習事項）を身に付けさせる。また、朝学習やまとめ学習の時間を活用し、校内正答率が低い単元を理解できるようサポート問題等を作成し、取り組ませる。

【理科】 実験の意味を理解するために、自分の予想が正しいとするには、どのような結果になればいいかを個人やグループで考えさせ、協働的に取り組めるように指導していく。実験結果の考察では、必須のキーワードを使って個人でまとめる経験を積み、過不足なく説明することができる力を伸ばす。また、ドリルパークなどを活用し、知識の定着を図る。

（２）音楽・図画工作・家庭・体育

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆各学級とも、合唱の能力はあるが、合奏では技能の個人差が見受けられる。 ○歌唱では、引き続き、自己の声の変容について意識させていく。器楽は、各楽器の基本技能を復習し、協同的な学習を推進する。	◆自己の発想を音楽表現に生かしていくための工夫が必要である。 ○音楽づくりの学習を通して、音楽の仕組みから表現の方法を工夫していく学習に取り組むようにする。	◆技能の個人差があることから、学習意欲においても個人の差異が見受けられる。 ○連合音楽会への学習を通して、グループでの合奏等、協働的学習の機会を有効に活用していく。

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆一人一人の実技における技能の差が見受けられる。 ○用具の基本的な使い方を中心に、ＩＣＴ機器を活用して、視覚的に分かりやすい指導を行う。	◆発想力や構成力に個人差が大きく見受けられる。 ○自分のイメージや表したいことを表現できるように、指導のポイントをおさえ、練習の機会を設けていく。	◆領域により、苦手意識を感じている児童が見受けられる。また、道具がそろわない児童がいる。 ○苦手意識がどこに起因するのかについて、個に応じた具体的な指導をしていく。また、道具については担任とも連携を図りながら、学習に向かう姿勢を整えていく。

【家庭】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆手縫いやミシンの指導にあたって、経験値の差から、学習の見通しをもつことが難しい。 ○具体物を提示し、縫い目などを観察したり、協働作業を取り入れたりして、児童同士での理解を深め合う場を設ける。	◆実生活の経験の差があり、家族の一員として、生活を工夫するという意識にばらつきがみられる。 ○様々な題材において、最初に、疑問点やできるようになりたいことを想起させながら、課題設定をする。	◆家族の一員として、生活をより豊かにするためのミシンを使った布小物の製作に対して意欲を高めさせる必要がある。 ○学習の見通しをもたせるために、学習の最終目標や全体的見通しを提示し、主体的に学習に取り組む態度を養っていく。

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ハードル走で自分の歩幅を考えてリズムカルに走ることができていない児童が多い。 ○体づくり運動や様々な場面で動きを取り入れていく。	◆自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫することが苦手な傾向がある。 ○タブレット端末などを活用して、メタ認知できる工夫をする。	◆場や用具の安全に気を付けられない児童が多い。 ○場や用具について、考えさせたり、細かく指導したりする中で身に付けさせていく。